

You, Unlimited

龍谷大学大学院

アジア・アフリカ 総合研究プログラム

The Graduate Program of

Asian and African Studies (GP AAS)

2027



RYUKOKU
UNIVERSITY

アジア・アフリカ 総合研究プログラム

The Graduate Program of Asian and African Studies(GPAAS)



現地の人々の視点にたった地域研究を実践する

グローバル化が進行し、日本とアジア・アフリカの関係が発展するなかで、それら諸国の深い学術的理解を目的とする高度な専門教育の実現が待望されてきました。このプログラムは、アジア・アフリカの地域研究に特化した大学院修士課程のプログラムです。プログラム科目はアジア・アフリカ地域に関する「地域研究科目」と、専門分野(政治学、経済学、国際学)の分析手法(ディシプリン)を習得する「総合研究科目」の二本柱から構成されています。地域の特殊性に対する鋭敏な感性と普遍的で厳格な学術的手法の両方を習得することで、地域と専門の両方を兼ね備えた地域分析の専門家を育成していきます。

ある地域が抱える問題を抽出し、解決策を探るには、そこで生きる人々の視点にたち、その社会独特の文脈を理解する必要があります。歴史、文化、社会、政治等で複雑に入り組んだアジア・アフリカ地域を理解するには、特にその点が重要です。龍谷大学は仏教という人間救済を主眼とする革新的な世界観を数百年来探求してきた浄土真宗の厚い知的蓄積の上に設立されました。現在ではこの地域を専門に研究する多様な教授陣が豊富に揃っている大学でもあります。本プログラムを実施する上で最適な環境が整っているのです。

アジア・アフリカ総合研究プログラム5つの特徴

Point

1

3研究科の共同運営

このプログラムは、法学研究科、経済学研究科、国際学研究科の3つの研究科が共同で運営する大学院修士課程の共通プログラムです。履修を希望する場合はいずれかの研究科に所属する必要があります。それぞれの研究科から、アジア・アフリカ地域研究で豊富な実績を持つ教員が科目を担当し、研究科の枠を越えてプログラム生を指導しています。

→詳細は5.6ページへ

期待される主な進路先

- 研究者
- 国際機関
- NGO、NPO
- 政府機関
- マスコミ
- 教員
- 国際協力機関
- 民間企業
- 地方自治体
- 出版 など

Point

2

充実したフィールド調査補助費制度

アジア・アフリカ地域に対して旺盛な研究意欲を持ち、論文作成においてフィールド調査を行うことが認められたプログラム生に対して、フィールド調査補助費制度を設けています。これまで多くの学生がフィールド調査補助費制度を利用し、修士論文の作成に役立てています。

→詳細は2ページへ



Point

3

修士号とプログラム修了証の授与

本プログラムを修了した学生は、所属する研究科の修士(法学)、修士(経済学)、修士(国際文化学)と、プログラム修了証(Certificate of Completion of Graduate Program in Asian and African Studies)を同時に修得できます。



Point

4

多様な進路が開かれています

本プログラムを履修した学生は、途上国で実践的に活動できる基礎力を修得しているため、多様な地域研究と豊富な専門研究を生かし、さまざまな進路に進むことが可能です。



Point

5

様々な入試制度を用意

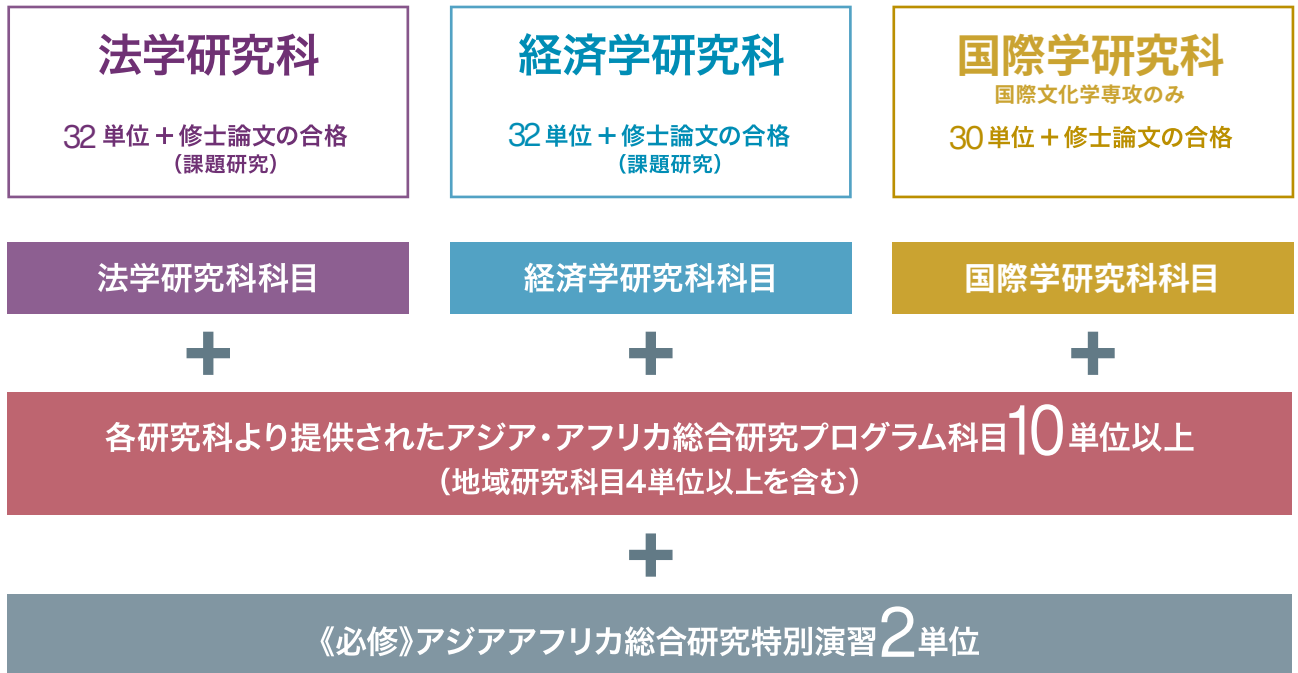
本学では、学内推薦入試、一般入試、社会人入試等、様々な入試制度を用意していますので、自身に合った入試を選択することができます。また、法学研究科では、独自に「アジア・アフリカ総合研究プログラム入試」を整備しています。プログラム進学後の研究計画書をもとにした、筆答試験1科目と口述試験により合否を判断します。

3研究科にわたるカリキュラム

プログラム生は3研究科のいずれかに所属し、プログラム科目および研究科科目を履修します。アジア・アフリカ総合研究プログラムに所属すれば、研究科の枠を越えた科目の履修、他研究科所属教員からの指導を受けることができます。なお、修士論文の指導は所属研究科の教員が行います。



▼ 修了要件



フィールド調査補助費制度

上限20万円、フィールド調査の必要経費を援助

- ▶ 審査で認められた場合、20万円を上限としてフィールド調査必要経費の80%を援助します。(※年間9名支給)
- ▶ 募集は前期と後期に行います。希望する時期・期間での調査が可能です。

運営委員長のメッセージ

アジア・アフリカ地域を深く理解するために

21世紀になって存在感を増しつつあるアジア・アフリカの地域社会は、今後どんな変化をしていくのでしょうか？これまでの西欧中心の世界観から、現実の多様な世界に即した世界観への転換が必要とされている今、龍谷大学のアジア・アフリカ総合プログラムのカリキュラムは、その意義をますます深めていると言えるでしょう。アジア・アフリカ地域は、自然環境にとどまらず、人間活動の社会や文化の奥深い多様性に満ちています。この多様性を反映して、本カリキュラムをささえる講師陣は、政治、経済、文化の各分野のエキスパートで構成され、また、学際的な視野をもち、多様な地域での長期にわたるフィールド経験にもとづく研究をしています。したがって、大学院でこのプログラムに参加することで、研究科を超えた学際的な学びの機会を増やすことにつながります。地域研究では、地域に根ざしたフィールドワークを主体的に行うことが、研究と実践的な教育の根幹です。そのための必修科目として、「アジアアフリカ総合研究特別演習」を用意しています。さらに、各受講生は、国内・海外を問わず、アジア・アフリカ地域におけるフィールドワークのための調査補助費の支援を受けることができます(選考あり)。みなさんもぜひ、私たちと一緒にアジア・アフリカの専門家をめざしてください。



運営委員長
松木 隆

充実したフィールド調査環境 (世界中の国と地域で広く調査しています)

徹底した実践的研究

アジア・アフリカ総合研究プログラムでは、アジア・アフリカ地域へのフィールド調査の実施を奨励・援助しています。

※調査対象地域の選定については、「龍谷大学海外危機管理マニュアル」に従い、外務省の危険情報区分により渡航を禁止する場合があります。

※調査の内容によっては、アジア・アフリカ地域以外への渡航が認められる場合があります。

中国

- 中国における宿泊特化型ホテル業界の発展過程 - ホーム・インズの競争戦略を事例に - (2013年度)
- 中国の高齢者がすみやすいまちづくりのための高齢者むけバスの提案 - 長春でのケーススタディ(2013年度)
- 中国における自動車需要のダウンサイジングと変動要因~消費者の生活環境と意識の変化から~(2013年度)
- 渤海の歴史と文化 - 考古学発掘資料を中心にして - (2013年度)
- 中国若年消費者の顕示性意識と消費行動 - 化粧品選択とその要因 - (2014年度)
- 中国の循環型社会形成における拡大生産者責任の阻害要因 - 自動車廃棄制度の事例(2014年度)
- 新生代農民工の流動化と技能意識(2015年度)
- ダイヤモンドに対する消費行動から見た中国市場の階層性(2016年度)
- 中国古代都城における造営思想の研究 - 北京城、長安城、洛陽城を中心として(2016年度)
- 教育発展の地域経済成長促進効果の実証研究 - 山東省における教育水準と経済の実態調査からの考察 - (2017年度)
- 中国の中小都市における農村移住者の住宅需要から見た「農民の市民化」(2017年度)
- 中国都市における城中村の改造後住民の就業問題 - 洛陽市での調査から - (2017年度)
- 国際社会の援助形態の変化と中国の影響下でのパキスタンの発展: CPECがもたらす影響と今後の展望 (2024年度)
- 観光需要に影響を及ぼす要因について-観光地ブランド価値に対する地域文化の役割 (2024年度)
- 中国東北地方における観光振興と地域住民の認識: 観光客の消費行動と地域経済への影響 (2025年度)
- EC活用が中国の小規模農家の経営高度化に与えた影響-東北地方の穀物農家の事例を中心に (2025年度)

日本

- 海外の日本語教科書にみる日本文化 (2010年度)
- 日本語ライティング能力向上のための教授法について - 日本語学校における中国人留学生を対象に - (2011年度)
- 九州地域における地熱発電による国立公園の自然保護への影響 (2013年度)
- 南九州における十五夜行事の諸相 - 奄美大島瀬戸内町油井の豊年踊りを中心に - (2014年度)
- 唐墓壁画の研究 - 胡人文化を中心にして - (2018年度)
- 真如苑、霊友会における「苦」と信仰 (2018年度)
- 日中間における非熟練労働者の移動-技能実習生を中心に - (2022年度)

大韓民国

- 日韓古代文化交流に関する調査研究 - 大和地方と古代朝鮮との比較を中心に - (2015年度)

台湾

- 近代日中交流における本願寺の役割 (2011年度)
- 台湾民主化の移行: 美麗島事件と台湾ナショナリズム (2015年度)
- 日本のマンガ、アニメの海外展開について (2019年度)

インドネシア

- インドネシア共和国における参加型地域社会開発の現状と課題 - スラウェシ島ワカタビ県の地域開発能力向上プロジェクトを事例に - (2010年度)
- Factors Affecting Small-Scale Fishermen's Income: The Case of Takalar District, South Sulawesi, Indonesia. (2011年度)

タイ

- タイの中等教育機関における日本語学習者の動機づけに関する研究 (2010年度)

ラオス

- ラオスにおける初等教育の普及を妨げる要因分析 (2018年度)

東ティモール

- The impact of Agricultural Production Educational Achievement and Social Services on Poverty Reduction in East Timor: Case Study of Manufahi District (2010年度)

ベトナム

- ベトナム人元留学生の留学モチベーション及び卒業後の進路・計画に関する研究(2022年度)
- ベトナムにおける農村観光の発展と課題: タイバック州ソラ市を事例として(2023年度)

ニュージーランド

- "Education of ethnicity language; Maori in New Zealand Focus on Maori Elementary School, Kura Kaupapa Maori"(2025年度)

イギリス

- イランにおけるホメイニー思想と現代イラン社会への影響について(2014年度)

フランス

- Camp BorioとSehou Toure政権(2014年度)
- フランス食文化と自然保護政策の両立可能性について(2022年度)

スロバキア

- "ヨーロッパにおける日本人表象と社会的立場-スロバキア共和国ブラチスラバで生活する日本人の経験から-"(2025年度)

アメリカ合衆国

- イスラム美術における具象のカリグラフィーの基礎的研究(2023年度)

南アフリカ共和国

- ポストアパルトヘイト期の南アフリカにおける地域コミュニティの現状と課題 (2010年度)
- Towards the Convergence of Local Government and Traditional Leadership through Ward Committees in KwaZulu-Natal : Exploring Prospects and Challenges (2011年度)

ウガンダ共和国

- ウガンダのHIV/AIDS問題における芸術表現を用いた活動の役割の考察から、他の低開発地域への応用の可能性を考える(2016年度)

ザンビア

- Commodity chain analysis and implications for rural household income in an emerging sub-sector : case study poultry-raising households in Mongu district of Western Zambia (2010年度)

モザンビーク共和国

- モザンビーク共和国における政府と農民組織間の利害関係の考察 - ProSAVANAを事例に - (2014年度)

ケニア

- アフリカにおける企業の社会貢献活動とソーシャルビジネスの台頭 (2011年度)

イラン

- ペルシア絨毯生産における都市との関係性と工房の活動について -20世紀以降のイスファハーンを中心に- (2018年度)

ドバイ

- マスカット・シティに見るUAEの環境政策 (2014年度)

ロシア

- 極東から見たロシア人・アイデンティティ形成の実態(2018年度)

トルコ

- シリアを通じた紛争後社会の「国家再建」(2022年度)

モンゴル

- オールドス地域文化研究 - モンゴルの埋葬文化を中心に (2009年度)
- 人間開発基金はモンゴル人貧困層に役立つのか (2012年度)

ネパール

- ネパールの人々は紅茶を彼らの文化にどのように取り込むか(2025年度)

インド

- インド絨にみる伝統染織の様相 - ベンガル地方とグジャラート地方を中心に - (2013年度)
- 18世紀から19世紀ピーカーネル派を中心としたインド宮廷絵画の肖像画に関する基礎的研究-東京国立博物館収蔵作品を中心として-(2025年度)

スリランカ

- Rural Sector Poverty in Sri Lanka: A case study in Monaragala district (2010年度)
- スリランカ社会の施しにみられる仏教的価値観の影響に関する研究(2022年度)

カンボジア

- 「性同一性障害」者が目指す社会へ - カンボジアの現状 (2010年度)
- Factors Affecting Children's Primary Schooling in Rural Cambodia Case of Siem Reap Province(2011年度)

在学学生・修了生からのメッセージ

統計データにはない、現地の「温度感」を求めて

カーン 亜志菜さん

経済学研究科 修士課程修了 経済学専攻

私の研究テーマは、「援助依存と経済発展—CPECがもたらしたパキスタン経済の転換点—」です。中国・パキスタン経済回廊(CPEC)を軸に、中国からの援助がパキスタン経済や人々の認識にどのような影響を与えているのかを分析しました。

先行研究や統計データだけでは捉えきれない現地の実態を知るため、本プログラムを活用して中国でのフィールドワークを行いました。現地では主に、中国人学生や一般市民へのインタビューを通じて、パキスタンの印象や中パ関係、CPECや対外援助に対する考えを聞き取りました。

調査を通じて印象に残ったのは、中国とパキスタンの友好関係を良好に捉えている人が多いこと、そして都市によってパキスタンへの認知度に明確な差があることでした。数字や文献からは見えにくい、両国の関係性や人々の意識を現地で直接感じることができたことは、大きな収穫でした。

このプログラムを通じて、研究の世界が広がっただけでなく、物事を多様な角度から捉える姿勢が身についたと感じています。大学院での研究を深めるうえで大きな助けとなるのはもちろん、今後の人生においても必ず役立つ経験になるはずです。少しでも興味がある方は、迷わずチャレンジしてみてください。



学びの中で出会う、多様な文化と考え方

何 嘉ぶんさん

経済学研究科 修士課程修了 経済学専攻

私の修士論文は、「観光地価値に対する地域文化の役割—中国四川省自貢市の灯会における観光客調査から—」をテーマとし、中国の伝統行事である灯会について、主に観光客の視点から、その発展に影響を与える要因を分析しています。アジア・アフリカ総合研究プログラムでは、政治・経済・文化といった多分野の視点から学ぶことができ、日本の学術研究における、伝統文化を継承しつつ地域の特色を活かし、地域活性化へとつなげる考え方や研究手法について理解を深めることができました。指導教員のもと、日本の先行研究を踏まえながら論文の理論モデルを構築できたことは、非常に意義深い学びでした。

本プログラムでの学びを通じて、研究の視点は研究対象の一国にとどまらず、アジア・アフリカ地域を含む多様な文化的・社会的背景を意識し、多角的に物事を考える姿勢が身につきました。学外では、アジアやアフリカを研究対象とする留学生が多く在籍しており、私自身も中国からの留学生として、授業外でさまざまな意見交換を行う機会に恵まれました。書籍や資料だけでは得られない、現地の人々自身の語りや視点に触れられたことは、視野を大きく広げる貴重な経験でした。

本プログラムは、文化・経済・政治などを学際的に学びたい人や、実地調査を通じて地域研究を深めたい人にとって、非常に魅力的な学習環境であると考えています。日本を拠点に、多様な文化背景をもつ学生と交流しながら、文化を共有し、思想を交換できる本コースは、新たな視点と可能性を広げてくれる場です。ぜひ多くの方に、本プログラムの魅力を知ってみてください。

交換留学経験から考えるスロバキア社会における日本人像

安藤 光輝さん

国際学研究科 修士課程在学(2026年5月時点) 国際文化学専攻

私の研究テーマは、スロバキア共和国における日本人表象と社会的立場についてです。私は、学部生の時にスロバキア共和国で1年間交換留学をしていた経験があります。その際に、様々な国籍の人と交流する中で冷たい態度をとられる時や、最初は冷たくとも私が日本人だとわかると態度を変えて興味をもって話しかけてくる人など、私が日本人であることにより相手の態度が変化することがありました。この経験から、ヨーロッパにおける日本人に対するイメージや社会的立場について研究したいと思ったのが進学のかきかけです。

アジア・アフリカ総合研究プログラムでは、他研究科の授業に参加できることやフィールド調査環境が充実していることに魅力を感じ履修を決めました。実際に、調査補助制度を利用してスロバキア共和国で生活している日本人に対するインタビュー調査と、日本文化がどのようにスロバキア共和国で受容されているのかなどに関するフィールドワークを行いました。オンラインでもインタビュー調査はできますが、現地に行くことでしか気づくことができないような発見がありました。来年度フィールドワークに挑戦する方はぜひ五感を研ぎ澄ませて調査してみてください!



アジア・アフリカ総合研究プログラム 授業科目

科目区分	授業科目	開講研究科		
特別演習	アジアアフリカ総合研究特別演習			
	地域研究科目	アジア	アジア経済史	経済学
			アジア政治論研究	法学
			日本経済論	経済学
			中国経済論	経済学
			日本研究A	国際学
			共生社会研究A	国際学
			言語文化研究A	国際学
			言語文化研究B	国際学
			宗教文化研究B	国際学
			芸術・メディア研究A	国際学
			芸術・メディア研究B	国際学
			特殊研究 (Asian Politics)	法学
アジアII	アジア経済論	経済学		
	中東政治論研究	法学		
アフリカ	アフリカ政治論研究	法学		
	アフリカ経済論	経済学		
	アフリカ社会論研究	法学		
	特殊研究 (African Politics)	法学		

科目区分	授業科目	開講研究科
政治分野	国際政治経済学	経済学
	比較政治論研究	法学
	国家・民族論研究	法学
	平和・紛争論研究	法学
	外交政策論研究	法学
	開発援助論研究	法学
	国際法研究 I	法学
	国際人権法研究 II	法学
	国際環境法研究 I	法学
	特殊研究 (Comparative Politics)	法学
	特殊研究 (International Human Rights Law II)	法学
	経済分野	民際学
経済協力論		経済学
環境経済学		経済学
農業経済論		経済学
フィールド調査の技法		経済学
開発経済学		経済学
特殊研究 (法政応用英語 I)		法学
文化社会分野	特殊研究 (法政応用英語 II)	法学
	特殊研究 (法政応用英語 III)	法学
	特殊研究 (法政応用英語 IV)	法学
	日本研究B	国際学
	共生社会研究B	国際学
	宗教文化研究A	国際学

※2026年度の科目名です。
 ※年度によって不開講となる科目があります。

アジアアフリカ総合研究特別演習 (2026年度シラバスより抜粋)

講義概要 / Course outline

アジア・アフリカ総合研究プログラムは地域研究を実践する場です。同プログラム唯一の必修科目であるこの特別演習では、地域研究や異文化理解とは何か、どのような方法論があるのか、また、フィールド調査の手順などを学びます。経済学研究科、法学研究科、国際学研究科の3研究科の担当教員が合同で開催することで、経済学、政治学、国際学のそれぞれの視角から、対象地域に対する学際的で多様なアプローチを紹介します。

同プログラムは、アジア・アフリカ地域へのフィールド調査の実施を奨励・援助しています。院生がフィールド調査を実際に行う準備として、各研究科の専門にもとづく方法を検討します。これらにより、フィールド調査を基礎にした学際的な地域・文化研究の方法論を各自で模索し、習得してゆく第一歩にしていきます。

この演習を通して、今後の履修生各自の研究の方向性、戦略を明確にすることが期待されます。

講義方法 / Study Method

3研究科の教員によるチェーンレクチャー。まずそれぞれの研究科の専門から見た地域研究の方法論を紹介。次いで、各専門から見たフィールド調査の基礎的な手法と、その実際の活用方法について説明します。3名の教員が4回ずつ解説。その上で、本プログラムのフィールド調査を実施する院生による、事前の準備発表を行います。

プログラム科目担当教員紹介



経済学研究科
アジアアフリカ総合研究特別演習 中国経済論

大原 盛樹 教授

中国・アジア経済論、産業発展論

中国の産業発展過程の特色を抽出することがテーマです。以前は地場企業(分業組織や技術、競争戦略)に焦点を当てていましたが、現在は彼らの行動に影響を与える国内消費と労働者の技能にも関心を広げています。インド、台湾等との国際比較が欠かせません。



法学研究科
アジアアフリカ総合研究特別演習、中東政治論研究、
国家・民族論研究、比較政治論研究

濱中 新吾 教授

比較政治学、民主化論、現代中東政治

私のライフワークは比較政治学の中の民主化論であり、民主制に基づく政治秩序の成立に関心があります。フィールドはイスラエルおよびアラブ諸国であり、選挙と投票行動、独裁制の持続と崩壊、国際関係認識と越境移動を分析の対象としています。



国際学研究科
アジアアフリカ総合研究特別演習

鈴木 滋 教授

人類学・霊長類学

野生の霊長類とくにゴリラとチンパンジーをアフリカ熱帯林で調査してきました。並行して、アフリカ熱帯林地域の自然保護についても研究をすすめています。類人猿の生息地である熱帯林の開発と保全のはざまにみられる国際化の波に注目しています。



経済学研究科
民際学

西川 芳昭 教授

農村開発、生物多様性管理、内発的發展論

農業の重要な投入財である種子をめぐる組織制度と社会経済的意味について研究を行っています。作物遺伝・生理を学んだ後に環境／農業経済に転向した経験を活かして、学際的アプローチで地域で生きる人々の多様な課題解決を考える研究に学生と一緒に取り組んでいきたいと考えています。



国際学研究科
日本研究A

徐 光輝 教授

中国考古学、東アジア文化交流史

中国考古学と東アジア文化交流史を研究しています。考古学は実物資料をもとに文化史を再構築するのが目的です。東アジア諸国は古くから文化交流が盛んに行われ、それぞれの価値観に大きな影響を与えています。衣食住行とそこから現れる精神文化の異同点を理解し、今後の国際交流を考えて行きましょう。



法学研究科
アフリカ政治論研究

落合 雄彦 教授

現代アフリカ政治学、国際関係論

専門分野は「現代アフリカ政治学」「国際関係論」で、特にナイジェリアやシエラレオネといった西アフリカ諸国の国内政治や国際関係について研究しています。独裁、軍事クーデター、エスニシティ、紛争など、日本の政治では扱わないテーマを考察する刺激的な学問分野です。

講演会・合同フォーラム報告

毎年様々な分野の講師を招き、プログラム生を対象に、講演会・フォーラムを開催しています。

年度	講演内容	講師	
2025年度	「台湾研究の40年を振り返る — アイデアの発芽、成果の結実、その後の展開 —」	佐藤 幸人 氏	日本貿易振興機構アジア経済研究所 所長 調査研究員
2024年度	「西洋」社会でフィールドワークをすること — オーストラリア都市部での調査経験より —	栗田 梨津子 氏	神奈川大学外国語学部 / 准教授
2023年度	南アジア農村女性のエンパワメント： 実証経済学で語るフィールドの現実	牧野 百恵 氏	日本貿易振興機構アジア経済研究所 開発研究センター 主任研究員
2022年度	アジア・アフリカ地域での資源の収奪的利用	鈴木 希理恵 氏 本郷 峻 氏	野生生物保全論研究会 事務局長 京都大学アフリカ地域研究資料センター 特定研究員
2021年度	難民はなぜ、どこへ移動するのか — フィールドワークの可能性と限界 —	錦田 愛子 氏	慶應義塾大学法学部 / 准教授
2019年度	龍大地域研究の現在	紹介された 研究(教育)組織	・世界仏教文化研究センター ・南アジア研究センター ・グローバル・アフェアーズ研究センター ・社会科学研究所 ほか、研究(教育)組織
2018年度	アジア・アフリカ地域研究を通して見えてくるもの 「変わりゆくアジアとアフリカの関係」 「性的マイノリティーから東南アジアの民主化の現時点を考える」	岩田 拓夫 氏 伊賀 司 氏	立命館大学国際関係学部 / 教授 京都大学東南アジア地域研究所 / 連携講師
2017年度	アフリカを研究することとその先にあること 「国立公園の普及と狩猟採集民の生活・文化の保全 — カメルーン東南部におけるジェンギ・プロジェクトの事例 —」 「ゴリラは特別な野生動物なのか」 「アフリカ植民地精神医学史研究へのいざない」	服部 志帆 氏 竹ノ下 祐二 氏 落合 雄彦 氏	天理大学国際学部 / 講師 中部学院大学看護リハビリテーション学部 / 教授 龍谷大学法学部 / 教授

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 アジア・アフリカ総合研究プログラム

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

京都深草キャンパス※ 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-7891 (教学部) お問い合わせは、法学部・経済学部・国際学部の各教務課まで。

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。



アジア・アフリカ総合研究プログラムの HP はコチラから
<https://www.ryukoku.ac.jp/aa/>

■ 入試について

「2027年度入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2027年度学費・諸会費については、「2027年度入学試験要項」をご参照ください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

